

平成29年度 地域連携活動報告書

連携先名称	佐賀県三養基郡みやき町	担当教員	地域創成科学科 本田尚正
活動状況	継続中	関連教員	【創成】入江彰昭, 町田怜子【造園】栗田和弥【農学部】松嶋賢一, 御手洗洋蔵
協定締結日	2018/2/22	活動資金	受託研究費 (佐賀県, みやき町)
活動内容	<p>平成27年度より佐賀県、みやき町の各自治体と東京農業大学の間で受託研究の契約を結び、研究資金の提供を受けて以下の活動を同時に展開している。</p> <p>1. 佐賀県との受託研究「佐賀県みやき町における東京農業大学との協働によるみやき景観まちづくり計画事業（手をつなごうプロジェクト）業務」：ひまわり園で観光集客力のある山田地区を中心とした景観まちづくりについて、みやき町から依頼を受け、佐賀県から研究資金を得て取り組んでいる。</p> <p>2. みやき町との受託研究「持丸地区古民家再生生活用プロジェクト（さが未来スイッチ交付金事業）業務：みやき町町民から町に寄贈された古民家および周辺農地を活用した地域づくりについて、みやき町から依頼および研究資金を受け企画立案および実践に取り組んでいる。</p> <p>ともに、学生を帯同して現地に入り、現地調査、住民ヒアリング等を精力的に行っている。現地活動の最終日には行政・住民・農大によるワークショップを開催し、調査内容の報告と農大からの提案を行い、それらに対する住民からの意見を集約して合意形成を図っている。</p> <p>現地活動の規模は、概ね次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7～8月：十数名規模。 ・11月～2月：必要に応じて数名規模。 ・3月：県・町の受託研究の合同調査。二十数名規模。 		
活動成果	<p>1. 佐賀県との受託研究</p> <p>「佐賀県みやき町における東京農業大学との協働によるみやき景観まちづくり計画事業（手をつなごう p j）業務」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山田地区の見所を巡るフットパス計画 ・高齢化が進行する同地区において、ひまわり園の今後の管理運営に関する問題点の抽出 ・山田地区をモデルケースとして、みやき町全体としての景観条例制定に向けての提案などを行った。 <p>2. みやき町との受託研究</p> <p>「持丸地区古民家再生生活用プロジェクト（さが未来スイッチ交付金事業）業務」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古民家を活用した地域密着型カフェ ・古民家の庭を活用したセラピーガーデン ・農地を活用したイベント ・ハード（施設）およびソフト（イベント企画）を管理運営する委員会の設置 などの提案を行った。そのうち、カフェなど提案の一部は実用化に向けて現在進行中である。 		
課題・改善点	<p>教員だけでなく学生を帯同して現地に入ることにより、自治体と住民とのコミュニケーションが円滑になり、さまざまな提案に対しても住民は前向きに受け止めてくれている。総じて人懐っこく、地域に自然体で入っていける農大生の能力は、住民だけでなく自治体職員にも高く評価されており、今後、農大が地域づくりに参画する上で最大の強味になるものと確信する。</p> <p>今後の課題として、古民家再生プロジェクトでは「継続性」、景観まちづくりでは「発展性」が挙げられる。</p> <p>「古民家再生プロジェクト」の継続性について</p> <p>地域住民は着実に高齢化するため、息長く無理のない活動メニューや行事計画、運営体制作りが重要となってくる。さらに大学生の宿命として、学生自身も最長で4年間の活動期間であるため、プロジェクトの継続性を確保するためにも学年の壁を越えた人材の育成が必要である。</p> <p>「景観まちづくり」の発展性について</p> <p>みやき町全体としての景観条例制定まで見据えた活動をするためには、山田地区以外の地区にも調査対象を広げ、町の施策としての合意形成が得られるよう調査・提案の実績を蓄積していく必要がある。</p>		



1 古民家再生計画：ミーティング 2 みやき町長とまち歩き
 3 景観計画：ミーティング 4 古民家再生計画：ワークショップ
 5 古民家再生計画：剪定教室 6 古民家再生計画：ランチプレート